

フィンランドの美術教育とデザインについて

池内麻依子*・福田隆眞

On the Art Education and Design in Finland

IKEUCHI Maiko and FUKUDA Takamasa

(Received September 25, 2015)

はじめに

本稿はフィンランドの美術教育とデザインについての報告である。筆者の一人の池内は現在、フィンランドのアールト大学視覚芸術学部の美術教育学科の研究生に在籍し、フィンランドの美術教育について研究を続けているところである。日本において北欧のデザインは有名であり、ネースシステム（スロイドシステム）の手工芸の伝統と現代のユニバーサルデザインが統合された質の高い製品が流布している。本稿では初等中等教育における美術教育とデザインの関わりと現在の社会でのデザインの一部を紹介し、美術教育とデザインについて一考する。

1 フィンランドの概略

フィンランドは約33.8万平方キロメートルの国土を持っており、日本よりやや小さい。人口は約543万人（2014年5月末時点）で首都のヘルシンキでは約61万人（2013年末時点）が生活している。公用語はフィンランド語、スウェーデン語（全人口の約5.4%）である。また公務員や若い世代を中心に英語を使える人が多い。宗教では福音ルーテル教(国教)、正教会(国教)が多い。国の歴史の概略は以下である。(注1)

1世紀頃、フィンランド人の定住。

11世紀～12世紀、キリスト教が伝来、東西キリスト教の競合。

1323年、スウェーデン・ロシア間の国境確定。フィンランドはスウェーデンの一部となる。

1809年、スウェーデン、フィンランドをロシアへ割譲。

1917年、ロシアより独立、フィンランド共和国成立。

1939年、対ソ戦争（冬戦争）。

1941年～1944年、対ソ戦争（継続戦争）。

1944年～1945年、対独戦争（ラップランド戦争）。

1948年、フィンランド・ソ連友好協力相互援助条約締結。

1955年、国連加盟。

1975年、CSCE（欧州安全保障協力会議）開催（於ヘルシンキ）。

1986年、EFTA（欧州自由貿易連合）正式加盟。

1995年、EU（欧州連合）加盟。

* フィンランドアールト大学視覚芸術学部美術教育学科研究生

1999年、EMU（欧州通貨同盟）加盟。

2002年、ユーロ導入。

また文化についての一般的なことでは、アニメのムーミン（トーベヤンソン）やシベリウスが作曲した交響詩「フィンランディア」がよく知られている。また、サウナやサンタクロースの発祥の地としても有名である。最近では小説がもとになっている映画『かもめ食堂』や北欧デザイン(テキスタイル・ファッションブランドのマリメッコやガラス製品ブランドのイッタラ、陶磁器ブランドのアラビアなど)の人気などの影響もあり、日本からの観光客が多く訪れている。OECDの読解力テストにおいて、優秀な成績を修めていることから教育システム、カリキュラム等注目を浴び、世界中の研究者・教育関係者が視察・訪問している。

2 教育制度について

近年のフィンランドの教育に関わる主な出来事としては以下のような事柄がある。(注2)

1979年、教員養成カリキュラムの改革。一部を除き、教員になるためには修士号の取得が必要となる。

1991年、北欧文化閣僚機構が、学校管理を国から地方自治体に移すよう勧告する。

国家教育委員会が組織される（視学官制度などの解体）。

1992年、教科書検定が廃止される。

1993年、国会にて教育の分権化に関する法律が採択される（6月）。

94年から教科書検定を行っていた管理機構（コウルハリトス）が全廃される。

1994年、行政改革の一環としてほとんどの教育権限が地方自治体に移管される。

学習指導要領（ナショナル・コア・カリキュラム）が改訂され、現場の教員の裁量が拡大される。

1995年、EUにフィンランドが加盟。

「2000年に向けての教育プラン」を発表。

2003年、教育省による教育・研究振興5か年計画（Education and Research 2003～2008）が整備される。

「国民がすべての段階の教育を安心して受けられること」を目標とする(文部科学省、2007)。

2004年、新カリキュラムとなり、授業時間数が複数学年でまとめられて示される。

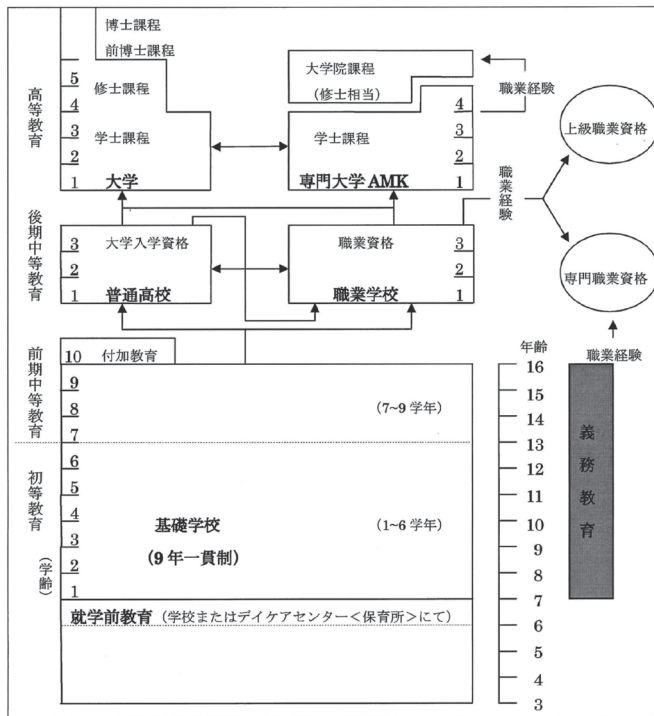
語学向上に重点が置かれる。

2006年、カリキュラムの改訂により、基礎教育（6・3制）を見直し9年間の一貫性が完全実施となる。

また、教育制度については教育制度に関する決議を国会で行い、内閣、教育省、国家教育委員会が中央政府レベルで決定された政策の実施について話し合う。中央ではあくまで大綱的なものを決定し、各地方自治体や学校で具体的な教育実践をそのガイドラインに沿って考察・決定する。

フィンランドには6つの州があり、さらに約430の地方自治体に分かれている。教育委員会または学校委員会がそれぞれの地方自治体に置かれ、各管轄内の教育的自治を行っている。(注3)

【図1】フィンランドの教育制度（注4）



3 教育課程と美術教育

フィンランドのナショナル・コア・カリキュラムとは日本の学習指導要領と同じようなものであるが、絶対守らなくてはならないものではなく、教師が授業を行ううえでのガイドラインのような働きをしている。ナショナル・コア・カリキュラムの中で美術教育と関わりのある内容は”Visual Arts”と”Crafts”の部分である。

基礎学校1～4学年、5～9学年、高校（アッパーセコンダリースクール）それぞれ目的、中心となる内容、良いパフォーマンスについて（評価基準）について記されている。”Crafts”の中の第5～第9学年ではビジュアルデザインとテキスタイルデザインが中心で、高校では”Visual Arts”の項目だけである。

(1) 基礎教育の”Visual Arts”（注5）

基礎学校での視覚芸術の教育課題は、生徒の視覚的な考え方、美学と道徳的な配慮の発展を支援することであり、独自の視覚表現の能力を高めることである。視覚芸術の重要な内容は、社会と芸術、メディアと環境における視覚文化を理解することである。視覚芸術の教育では、生徒がフィンランドの文化と生徒独自の文化、そして彼らにとっての外国の文化の視覚世界を理解することである。また、感謝することへの態度を培い、視覚芸術の継続可能な未来のために必要な技術を発展させることである。

① 1～4 学年

第1～第4学年を通した視覚芸術の教育では、生徒は創造力の使い方と多様な方法で感覚的な観察をすることの練習をする。取り組む方法は遊びに富んでいる。基礎となる内容は視覚表現における基礎的な技術と素材、芸術の特徴的な制作のアプローチを含む。

○目的：

- ・視覚表現に必要な技術と知識を学ぶ：観察すること、アイデアを処理すること、創造すること、発明と創造的な問題解決：美学的な選択をし、それを正当化する；そして個人の目標を設定する。
- ・絵を描くことと空間を構成すること、素材の知識を得ることの技術を学ぶ。
- ・彼ら自身の絵やその他の絵について自身で吟味することと、話し合うこと、基礎的な芸術の概念の使い方を練習すること、芸術とビジュアルコミュニケーションにおける多くの視点に感謝することを学ぶ。
- ・彼ら独自の文化と経験の領域の中の外国の文化の視覚的な伝統、フィンランドの伝統的な建物、現代美術、重要な建物と彼らの地域社会、建築とデザインの中の自然環境を知る。
- ・美学的な価値、楽しさと彼らの環境の機能性を評価することを学ぶ。
- ・彼ら自身の生活の中の様々なメディアの意味を吟味すること学ぶ。
- ・ビジュアルコミュニケーションの道具を使うことと、現実と想像の世界の違いについて理解することを学ぶ。

○中心となる内容

視覚的な表現と考え方：

- ・視覚的な技術、表現方法と素材：絵画、素描、グラフィック、デザインと建築。
- ・視覚的な構成の基礎：バランス、緊張、リズム、色、形態、空間、動き、時間と線。
- ・視覚的な画像の勉強と評価、話し合いをしているときに正しい専門用語を使いながらの練習。

芸術的・美学的な知識と文化的な専門的知識：

- ・地域の美術館や美術展示、芸術家の制作作業を見学する。
- ・独自のイメージとそれらを話しあうことによって作られた美学的な画像を勉強する。
- ・フィンランドの黄金期の巨匠；現代美術と様々な時代の芸術形式の例を知る。

環境的な美学、建築とデザイン：

- ・自然、建物、建築遺産の紹介と描写；環境の中の変化の認識。
- ・吟味すること、デザインすること、オブジェを作ること；3次元の建造物；環境計画と模型を作ること。

メディアとビジュアルコミュニケーション：

- ・視覚的な説明の基礎：話から写真まで、詳細な観察と概要、画像と文字を組み合わせる。
- ・イラスト、マンガ、広告画像、写真、ビデオとデジタルの画像。
- ・批判的な勉強とテレビ、ゲーム、映画、マンガと広告におけるビジュアルコミュニケーションの調査。

②5－9 学年

第5学年～第9学年の視覚芸術ではメディアテクノロジーと視覚的表現の基礎と技術、一つの表現・コミュニケーションの方法として画像の重要性に重点を置く。映像等によって、生徒は芸術とその歴史の知識、視覚的イメージを解釈する技術を高める。目的は生徒が様々な文化とそれらとの相互作用を理解することを促す。学ぶ過程では、生徒相互作用、制作、芸術との経験のための機会を提供する。

○目的：

- ・主要な素材、技術、道具と芸術とビジュアルコミュニケーションの中で使われている表現の

方法を知る。

- 生徒の視覚的な表現形式における考え、観察、アイデア、感覚表現することを楽しむこと、生活の多様な現象を扱う芸術の方法を理解するようになることを学ぶ。
- 生徒自身の制作の過程を記録すると同時に、芸術的な過程の自然の気づきを理解できる。
- 生徒自身とそれ以外の視覚的な表現と制作アプローチを視覚、内容、技術的解決、などで評価すること、そして芸術の重要な概念を学ぶ。
- 生徒の作品、情報入手、経験のための資源としての文化的なサービスと電子媒体を上手に使うようにする。
- ビジュアルコミュニケーションとインパクトのある技術を知ること、メディアの中で自身の考えを表現するためビジュアルコミュニケーションの重要な道具を使うことを学ぶ。
- 芸術、ビジュアルコミュニケーション、美的なそして倫理的な観点からの環境を学び評価する。
- アートプロジェクトのコミュニティーメンバーとして自主的に制作する。

○重要な内容

視覚的な表現と考え方：

- 素描、グラフィック、絵画、陶芸、彫刻、空間芸術、環境の中のアート；視覚的な思考を深める。
- 視覚的な構成の基礎、バランス、緊張、リズム、形態、色、空間、動き、時間と線。
- 芸術と個人の視覚的表現の中における視覚的な象徴的表現のスタイル。
- 視覚的な意味によって個人独自の観察、思考、アイデアを表現すること。

美学的な知識と文化的な専門用語：

- 現代美術、芸術の歴史、様々な文化の視覚的な世界の中心となる特徴。
- 美術館の見学、芸術家の作品の紹介、インターネットの文化的なサービスを利用することを
知る。
- イメージの分析：芸術的な画像の構造を勉強すること、内容の解釈と芸術の批判。

環境的な美学、建築とデザイン：

- 自然と人工の環境の相互作用を吟味すること、建築の遺産について勉強すること、美学的、倫理的、生態学的、そして計画することの見方から、多くの環境を吟味することと評価すること。
- 表現、絵画様式の特徴、建築とデザインの伝統の意味の紹介。
- 最も重要なフィンランドを代表する建築とデザインの紹介。
- 観察、計画、空間を造形する；デザインの過程の紹介；素材と意図的な使い方の間の繋がりを吟味する。

メディアとビジュアルコミュニケーション：

- メディアの中の画像の意図的な利用を吟味すること；メディアプレゼンテーションの構造的
内容的分析をする。
- 写真撮影かデジタルとビデオの撮影。
- 視覚的な解説の表現形式：イラスト、続き漫画、動くイメージの空間的な特徴を知る。
- グラフィックデザイン：画像と言葉を結びつけること、活版印刷の基礎と構造。
- 広告の路線と表現の意味。
- 映画とテレビ番組の分析。

(2) 総合中等学校の”Crafts”では

クラフト（手工芸）の課題は生徒の手工技術を発展させることであり、作業を通して喜びと満足を得る。さらに、制作のための責任感と素材の使い方が増え、素材と作品の質に感謝することや、アイデア、製品、提供されるサービスを評価する態度や批判することを学ぶ。

①第1－4学年

第1～第4学年では、クラフトの中心となる課題では、生徒に手工芸の技能と知識を教えること、そして彼らの批判的な能力や責任感、作品と素材の選択の質の気づきを自覚することができる。生徒は基礎的なデザインスキルを理解し、彼らのデザインを認識するための基礎的な能力を掴むことができる。彼らは安全に的確に、クラフトで必要な機械と基礎的な道具の使い方を指導される。彼らの忍耐力と問題解決能力はグループと個人の制作活動により発達させられる。変化に富む制作、技術の発達など制作の楽しさに気づき、制作することと勉強することに積極的な態度が求められる。

○目的

- ・クラフトと関連した概念を知り、多様な素材、道具と方法を使うことを学ぶ。
- ・職業の安全性に向けて肯定的な態度をとる；道具や機械の安全な使い方を学ぶ。そして彼らの学習環境の整備に専念することを学ぶ。
- ・基本的なクラフトの技術と製品の計画立案について学ぶ。またそれに関する彼らの思考と創造性のスキルを発展させる。
- ・デザインすることと作ることの過程の中で空間的な認識を学ぶ。
- ・製品の美術的な特性、色と形態に注意を払うことを学ぶ。
- ・日々使う製品を作ること、面倒をみること、修理することを学ぶ。
- ・物と生徒自身の環境のために責任を持つことを学ぶ；製品にはライフサイクルがあることを理解する。
- ・徐々に全体のクラフトのプロセスを習得するようになる。
- ・個人として、彼ら自身の作品とその他の作品を評価することと感謝することを学ぶ。

○重要な内容

- ・技術的な仕事とテキスタイルと関係がある基礎的な素材、道具、技術。
- ・制作することと制作スペースと関係のある安全性の要因。
- ・その内容の中で自主的なクラフトプロジェクトをデザインすること。生産デザインに必要な技術練習することと実験すること；デザインのイラストを描く多様なテクニック；製品の生産。
- ・生徒にとって自然と人工環境の現象、そしてそれらの現象の技術的な適用。
- ・素材と製品のメンテナンス、保存、保証（賠償）；リサイクルすることと再利用。

②第5－9学年

第5～第9学年では、クラフトの中心となる課題は、生徒のクラフトについての知識とスキルを増やし深めることである。それによりクラフトの制作過程の様々な段階で、以前よりも自主的に素材・クラフトの技術・適切な道具を選ぶことが可能になる。様々な学校の教科と地域的な制作活動・工業的・文化的なコミュニティーの代表と一緒に生徒の協力的な技能は、生徒のジョイントプロジェクトを実行することによって発展させられる。

○目的

- ・生徒の目的に適した高品質のもの、美学的に喜ばしい製品をデザインすることと生産することを学ぶ。そして制作の時に、倫理的、生態学的、経済的な価値について考える。

- ・生徒をフィンランドの製品に慣れ親しませる。
- ・生徒自身を伝統と現代の科学技術と関連したスキルと知識に慣れ親しませる。
- ・生徒自身の作品と他の人の作品に感謝することと批判的に吟味することを学ぶ。
- ・科学技術の発展の立場を取り、自然・社会・個人の幸福にとってのその重要性について学ぶ。
- ・起業家としての活動と工業生産過程を理解するようになる。

○重要な内容

クラフト知識の一般的な内容：

- ・製品とプロセスを概念化すること。
- ・形態、構成、色彩。
- ・素材と消費者についての知識。
- ・素材の使用に感謝する。
- ・多様なシステムと制作のための教授。
- ・クラフトと学校教育の科目、視覚芸術・自然科学・数学との繋がり。
- ・デザインと知的生産物を記録する・報告する・説明するための多様な技術。
- ・フィンランドの文化・伝統・デザイン・他の文化からの影響についての知識と経験。
- ・起業家としての活動と地方独自の工業的な生活の導入。
- ・個人の作品・結果の評価と他の作品との連携を考察する。

○内容：技術的な制作

ビジュアルデザインと技術的な計画：

- ・計画するなかでの専門的な素描、模型制作そして情報技術の応用。
- ・適切なそして異なる目的のための多様な素材の創造的な使い方、異なる技術を使うこと。
- ・人工的環境と多様な製品、それらが含むメッセージや象徴的な意味。
- ・多様な装置、構造の主な操作、工業的な概念とシステム、それらの概念とシステムの応用。

生産：

- ・技術的な作業に必要なクラフトの道具と機械、そして安全に利用することとそれら熟練。
- ・技術的な作業のための多様な素材と生産技術、そして彼らの創造的な選択、組み合わせと処理。
- ・多様化された計画の創造。

○内容：テキスタイル制作

ビジュアルデザインと技術的な計画：

- ・教科の範囲内で、家庭の生地や服と関連するテキスタイルとファッションの歴史を適用する。
- ・インテリアデザイン、テキスタイル、服そしてテキスタイルアートの象徴的な意味やメッセージ。
- ・デザインの中で補助的な情報技術の応用と新しい技術。
- ・テキスタイル製品の三次元形態の構造一例として模様作りの基礎。
- ・異なる目的の適切で創造的なテキスタイル素材の使いかた、異なる技術を使うこと。

生産：

- ・テキスタイル制作のための伝統的、現代的な道具と機械；それらのメンテナンス、主要操作、そして安全な使用；課題のために正しい道具と機械を選ぶこと。

- ・テキスタイル制作のための様々な素材とクラフト技術；それらの創造的な選択、組み合わせと処理。
- ・テキスタイル製品の手入れ、メンテナンス、リサイクル。

(3) アッパーセコンダリースクール前期中等教育（高等学校）

前期中等教育基礎学校の『視覚芸術』の教育では、生徒は彼ら自身のそしてその他の視覚文化を解釈すること、感謝することそして価値づけることを学ぶ。視覚芸術の教育目的は、生徒の社会・環境それらの重要性の中の視覚環境についての理解を発展させること。独自の芸術の勉強は生徒に芸術を楽しむ機会、成功の感覚と何が彼らにとって重要な表現する体験を与える。視覚芸術は生徒の想像力の発達、創造的な思考と結合性のある技能の発達を助ける。

○目的とインストラクション

- ・生徒自身の生活や社会の中で視覚芸術と他の視覚文化を認識すること、理解することそして価値づけることを学ぶ。
- ・視覚芸術と文化の重要な概念を認識し、解釈するためにどのようにそれらを使うか、そしてどのように視覚によるメッセージや他の人々の作品を評価するのか、そしてどのように制作課程を説明するのかを知る。
- ・国際的な作業と関係のある制作方法、自己評価と協調性について練習を通して得る。
- ・様々な素材、技法そして道具から選ぶ事、そしてそれら彼らの視覚表現において適切に使うことを学ぶ。
- ・現代美術と視覚芸術の歴史について精通する。
- ・人々と社会におけるメディア文化とその影響を理解する。
- ・計画をたてること、生産することそしてメディア作品の視覚要素を美学的に評価することを学び、そして彼ら自身の視覚作品にどのようにメディア技術を応用するか知る。
- ・視覚言語と建築、デザインと素材文化の歴史について精通する。
- ・文化的公共事業を使う事、そしてそれらの感謝することができる。

○評価

視覚芸術の評価は長期的で相互に作用する過程である。個々の生徒の進捗について情報提供されなければならないと同時に彼ら独自の視覚表現の中で彼らに彼ら自身が勇気と自身を持ち表現するように勇気づける。視覚芸術の教育は生徒の自己評価のスキルを発展させなければいけない。評価の目標は、生徒の制作過程と結果、関連する内容、表現的なそして技術的なスキルであり、彼ら独自の表現の中で彼らの理論的な知識の応用する能力を含む。視覚芸術コースの評価では視覚と独立した書面、グループの課題、スケッチ、個人の課題と活発な参加の程度の平均で考慮する。

①『必修コース』

● 1. 自分、視覚イメージと文化

○目的

- ・内容と視覚文化の基礎に精通する。
- ・視覚芸術と個人で選択することを通して彼ら自身で表現することを学ぶ。
- ・生徒自身や彼らの仲間によって制作された画像、同様に芸術的作品やメディア画像を吟味したり評価したりすることで、芸術の概念を知る。

- ・視覚文化の現象とそれらの内容・形式・個々そして社会についての意味の解釈を批評的に吟味すること学び、そして彼らが学んだことを彼ら自身の作品に応用することを学ぶ。
- ・生徒自身の生活と社会の中の両方の視覚芸術と他の形式の視覚文化の重要性を理解する。

○中心となる内容

- ・芸術を構成するもの；芸術の形式、個人と社会の展望、そして芸術の様々な概念。
- ・文化の中でのイメージの力と力のイメージ。
- ・芸術と一つの文化の媒体：フィンランド、北欧そしてヨーロッパの文化とヨーロッパ以外の文化。
- ・個人的な視覚的表現：素描、絵画、3次元の技術、デジタル画像の使用。
- ・一つの画像を作るものの様々な方法：構成、形態、色、運動、空間と時間；形式主義、記号のそして図解的な解釈と評価分析などの分析の様々な方法。

●2. 環境、場所そして空間

○目的

- ・デザイン、建築、表現方法、素材の知識、美学と過程を計画することの基礎を学ぶこと。
- ・美学的な道徳的な用語と社会的文化的に継続可能な発展の観点から、環境的な開発とデザインについて観察する。
- ・自然、人工物、社会的精神的現象とそして、一つの文化的なメッセージと同じように環境を考察することを学ぶ。
- ・コミュニティと環境的な開発とより広い感覚で視覚文化の中の環境芸術の重要性を理解する。

○中心となる内容

- ・一つ概念としての空間：精神としての空間の認識、肉体的社会的な場所。
- ・建築とデザインの基本概念：スケール、動き、空間、形態のシステム、構造、色、フォルム、シェープ、素材。
- ・景色、建物、素材としての芸術の物体と作品、理論的美学的なメッセージとそれぞれの時代の文化的歴史の代表。
- ・文化的に継続可能な発展と経済的な生活からの建築とデザイン。
- ・モデリング（模型制作）、計画（見積もり）、縮尺模型と違う素材の実験。

③『専門家コース』

●メディアと視覚メッセージ

○目的

- ・メディア、メディアと文化の関係と現実を通して表現された世界を分析することと解釈することを学ぶ。
- ・メディアが影響する視覚的意味を理解する。
- ・生徒自身の表現の道具として、様々なコミュニケーションの環境で多数のイメージと技術を使うこと学ぶ。
- ・分析することと生徒自身のメディアとの関係を発展させることを学ぶ。

○中心となる内容

- ・メディアのイメージ：フォトジャーナリズム、広告業、娯楽に使われるイメージ、人気のある文化、漫画、ウェブサイトやコンピューターゲームの視覚的表現。

- ・グラフィックデザイン:レイアウト、活版印刷、画像処理と転写技術。
- ・イデオロギーの批判と異なる時代・場所・サブカルチャーにおけるメディアイメージの文化的な分析。
- ・メディアの中の写真。
- ・映画とビデオ動画:伝統的なそして刷新的な視覚的解説。
- ・製品の実用化とブランドの創造における視覚的表現。

●芸術の画像から個人のイメージへ

○目的

- ・視覚芸術の歴史の中での発展を主題的に年代順に知ること。
- ・テーマと視覚芸術で使われている様々な時代と文化における表現の道具を理解すること。
- ・生徒独自の表現の中で、芸術に関する知識を利用すること。
- ・自主的に制作することと思慮深い言葉の自己評価の中で練習することを学ぶ。

○中心となる内容

- ・視覚的そして言葉による表現形式における美学的な画像の解釈と分析。
- ・文化的な意味と視覚芸術の中の様々な時代の見解を明らかにすること。
- ・芸術の発展と創造的芸術の過程の一部としてモチーフをスケッチすること。
- ・内容と芸術家と文化の一つのメッセージとして一つの画像の表現形式;構成、色、光、陰と動きが含まれる;錯覚のそして三次元の状況・側面;質感と素材。

●現代美術のワークショップ

○目的

- ・現代美術の現在の状況について行くことと評価すること学ぶ。
- ・生徒の環境の中で視覚的な意味に気づくことと発見すること、彼らの観察を彼ら自身の表現に応用することを学ぶ。
- ・様々な状況で作業をするとき、現代美術の手段を使うことと理解することを学ぶ。
- ・意図的な過程と関係のある制作方法の中で練習をする機会を得る。

○中心となる内容

- ・現代美術を構成しているもの:現代美術の表面下にある芸術の現象と多様な概念。
- ・現代美術と異文化間で起こる相互作用;視覚的サブカルチャー。
- ・学校やその他の場所での相互に芸術的なプロジェクト。
- ・個人独自の創作の実施。
- ・芸術の分野を操作している社会と団体での視覚的な専門職。

以上のように教育課程では視覚芸術とクラフトに別れている。視覚芸術はいわゆる美術であり、幅広い美術の分野を対象として、表現と鑑賞、美術史・美術理論の内容を教育している。クラフトではデザインの概念の習得と手工芸や生産デザイン、建築デザインに関わる内容も学習の対象としている。

4 美術教育とデザインの意義について

前述のように、フィンランドの初等教育、前期中等教育、後期中等教育では、基本的な美術

の技法について学ぶことが主となっている。絵画、彫刻、陶芸、版画などである。デザインについてはクラフトの教科でデザインの概念を含めて教育課程で示されている。パッケージや包装のデザイン、Tシャツのデザインなど、日本と同様に指導する教員の選択によって左右される傾向にある。フィンランド人によると児童・生徒にデザインを教えることは可能だが、制約が多くこどもの興味や集中力を維持することが難しいので、あまり学校教育の中では取り入れられていないのではないかという意見もある。デザインを専攻する学生は大学に入ってから本格的にデザインの勉強を行う。それまではデザインよりも美術の作品制作を行う機会が多い。特に小学生にあたる年齢では、表現することの楽しさを体験することが美術の授業の中で重要視されているようである。

北欧のデザインとしてフィンランドのデザインも有名であるが、学校教育においては美術の広い感覚や創造性を育成することが重要視され、具体的なデザインについては高等教育において専門教育としてなされている。教育課程や教材では、広く芸術としての美術を捉えることで、その後の専門教育の質の高さの基礎となっていると考えられる。

次に、フィンランドでの身近なデザインの事例について具体的に紹介する。ファブリック製品（カーテン、ベットのカバー、クッションカバーなど）は比較的色彩豊かで様々な模様が使われている。一般家庭では長い冬を乗り切るために家の中が明るく楽しくなるようなファブリック製品を選ぶ傾向がある。フィンランドの冬の日照時間は少なく、外は寒く雪が積もっていることも多いため家の中で過ごす時間が多い。そのため、少しでも楽しく明るい気持ちで生活できるように明るい色彩や大胆な柄をキッチンツールやファブリックにデザインされている。

ファッションについては年配のフィンランド人（特に女性）はカラフルな服を選ぶ傾向がある。フィンランド人によると、ロシアとの二度の戦争後、フィンランドは貧しかったため、女性は男性の黒いコートを直して使用しなければいけなかった。その反動からか、黒、ブラウン、ベージュなどの暗い色よりも、明るい色彩で様々な模様の服がデザインされ、年配の女性は好んで着用しているとのこと。戦争を経験していない若い世代は黒をファッションとして好んで着ているようである。特にデザインを学んでいる学生で黒をまとっている人が多い。

ファッションやファブリックと関わりのあるテキスタイルデザインにおいては、自然からアイデアを得たような有機的な曲線を用いた抽象的な柄や植物のシルエットをそのまま用いたもの、実際の自然の色彩をそのまま用いたものが多い。フィンランドで冬・春・夏を過ごしてみて感じたことは冬から春になるときに、灰色で暗かった外の景色が暖かくなるにつれて、鮮やかな植物の緑色と日光によって急に眩しく明るい世界に激変した。このとき感じた色がそのままテキスタイルに用いられていると感じ印象として強く残っている。それまでは、フィンランドのテキスタイルデザインでは色彩を鮮やかにデザインされていると考えていたが、実際の春の自然の色をそのまま用いていると感じ感動した。そして冬の暗い時期に家の中だけでも春の明るく暖かな雰囲気を再現しようとデザインされている。

食器などのプロダクト製品については、比較的にシンプルで機能的な製品が多い。その背景として、ロシアとの戦争後、フィンランドは多額の賠償金を払うために産業を発達させ、国民は必死に働く必要があった。当時フィンランドにはフィンランドで作られた製品しかなかった。それらを他国に輸出する際に少ない材料でたくさん作れて、多く収納できるような形にデザインされた。さらに労働者も使うため、豪華な装飾があるものよりシンプル、合理的で使いやすいものが作られた。当時は使うことを楽しむためではなく、使うことに適した形が好まれた。このような理由でデザインされた形は現在になって再評価されている。

色彩については、日本の製品と比べるとバリエーションが多い様に思う。鮮やかな黄色、青色、そして自然の植物・動物を用いたイラストなど形は比較的シンプルなものが多い。

プロダクトデザインにおいては北欧の近隣諸国（デンマーク、スウェーデン、ノルウェー）やヨーロッパ（イタリア）、アメリカそして日本との繋がりを感じる。特にデザインを学んでいる学生で日本に興味を持っている学生が多いように感じた。またヘルシンキデザインウィークでは数名の日本人デザイナーが地元のデザイナーと共に取り上げられ冊子等に掲載されていた。

ユニバーサルデザインについては建築物には必ずエスカレーターがついている。更に階段の横に車いすやベビーカーなどが通れるようなスロープが作られている。コンクリートやブロック、または金属で作られていることが多い。特に電車や地下鉄の駅には必ずある。

バスにはベビーカーと車椅子専用のスペースがある。折りたたみ型の椅子が設置されているのでベビーカーの乗客がいないときは誰でも座ることができる。ベビーカーや車椅子の乗客はバスの中央の入り口から乗る。外側には手動で扉を開けられるボタンが設置されている。ベビーカーで子どもを連れた親は無料でバスを利用することができる。また、車椅子の方が乗り降りする際に出入り口付近の床に収納された板があり、必要な時にすぐに臨時のスロープを作ることができる。

新しい公共施設には体の不自由な人向けのトイレが必ず設置されている。日本にある同様のトイレと比べるとスペースが広く、洗面台や鏡などが低めに設置されている。また手すりなども使う人の目線になって作られている。

日本のように様々な商品バリエーション（デザイン・価格など）があまり無いため、物を大切に使っている印象を受ける。学生でも普段使いの食器などは少し高めでも長く使えるフィンランド製品（イッタラやアラビアなど）を少しずつ時間をかけながら集めている印象を受けた。あまり贅沢はしないが長く使える良い素材のもの、良いデザインのもので気に入った製品を購入しているようである。普段から良い製品に囲まれて生活していることもあり、一般の人々のデザイナーやクリエイター、アーティストに対する理解度や尊敬度が高いように感じる。

フィンランドはスウェーデンとロシアに長く支配され、独立してからの自国の歴史があまり長くない。それらのことも関係していると思われるが、新しいものに対する興味関心が強く、良いと思うものはすぐに取り入れる傾向がある。また、言語教育、特に英語教育に力を入れていることもあり、常に新しい情報を手に入れたり発信したりすることが可能である。大学の授業でも英語の文献を読んだり、アメリカから講師が特別講演に来たりしている。また、最近では様々な国々からの留学生や移民を受け入れていることなどからグローバル化が進んでいる。これらの要素も現在のフィンランドのデザインに関係していると思われる。

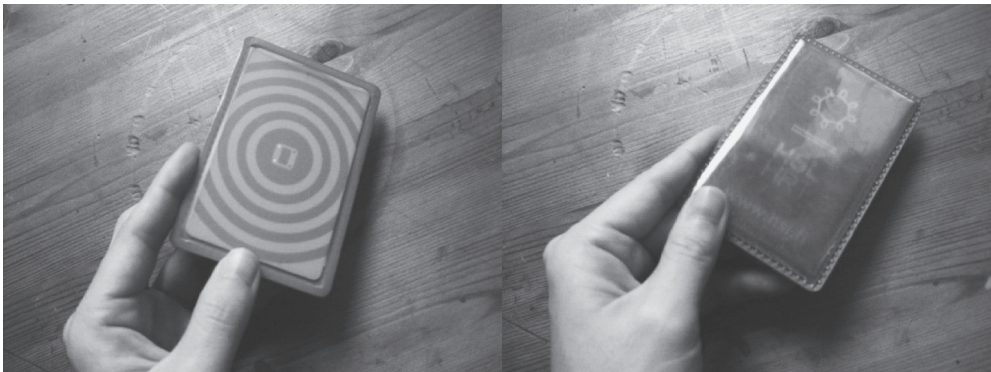
ヨーロッパの不況の影響はフィンランドにも深く関わっている。最近のニュースではフィンランドを代表するアラビア（陶磁器ブランド）はフィンランドでの生産を完全にやめ、タイの工場で作ることが決まった（2015年9月）。またマリメッコ（テキスタイル・ファッションブランド）では幾つかの衣料製品を中国の工場で作っている。比較的知名度があるフィンランドブランドは自国での生産をやめ、賃金の安いアジアの工場生産する会社が増えている。それとは逆に、比較的新しいブランドはフィンランドの国内で製品をつくり、売り出そうとする動きがある。陶磁器ブランドと衣料ブランドのR collectionがそうである。

以下にデザインのいくつかを図版で紹介する。

- 教科書（左：Kuvan tekija 出版社Wsoy 第7－9学年用（中学校）、右：Kuva taide出版社Wsoy高等学校）



- トラベルカード



●バス（車椅子やベビーカーを使う人用のスペース）

出入口の床に取手が付いており、それを引っ張ると板が段差を無くすスロープになる。



●階段とスロープ（ショッピングセンター、公共施設など）



● マリメッコ Marimekko



マリメッコは1951年に設立された独自のプリントと色彩で有名なフィンランドのテキスタイルとファッションのデザインのブランドである。高品質の服、インテリアを飾るためのテキスタイル、カバンやその他付属品や関連商品をデザインし販売している。アルミラティラ(Arim Raita)と彼女の夫ヴィリオ(Viljo)がマリメッコを設立した。マリメッコの名前は、女の子の名前である“Mari”とドレスという意味の“mekko”という。二つの単語からできている。会社設立当初のフィンランドは第二次世界大戦後の復興の最中であり、人々は明るい色とフレッシュなアイデアを求めている。(Marimekko 公式HPより <http://www.marimekko.jp/who-we-are/unfold-story>) 日本でも人気のブランドであり、日本人のデザイナーも働いている。

● アラビア ARABIA (陶器)、イッタラ ittala (ガラス) 現在はフィスカルス (Fiskars) によって運営されている。

アラビアはフィンランドで最も高い評価を受けているブランドの一つとして知られ、140年を超えてもフィンランドの家庭において強い地位を保っている。彼らはフィンランドデザインの先駆者であり、そのデザインは美しさ、クオリティ、実用性を兼ね備えている。1873年以来、アラビアは多くの貢献と共に消費者重視のデザインを時代の中で映した。アラビアの重要な能力(適正)はデザインと持続的な発展から成る。(ArabiaのHPより <http://www.arabia.fi/en/Arabia-Story>) 日本でも人気のあるムーミンの陶器をデザイン・販売している。

イッタラは、1881年にフィンランド南部のイッタラという名の村でガラス工場として設立された。20世紀初め、正餐用食器はたくさんのオーナメントによって装飾されていた。イッタラは初めて装飾的な食器から機能的、美学的に喜ばれるもの、進化的な北欧デザインを吹き込んだ食器に一変させた会社の一つである。イッタラで有名な製品を作り出したデザイナーに、カイ・フランク、アルヴァ・アアルトがいる。彼らの信念は、物は常に考えて作られ、みんなに使ってもらえるようにデザインされるべきである。彼らにとって製品は明確に区別でき、組み合わせ可能、多機能で長期的に使えるデザインであるべきだと信じている。フィンランドをベースとするブランドはクオリティ、美学、機能性が重要な価値だと考えている。ただ美しい

ものを作るだけでなく、決して捨てられることのない永遠のデザインを信じている。(ittalaのHPより <https://www.ittala.com/about-us>)



● フィンレイソン FINLAYSON

フィンレイソンはフィンランドを代表する老舗のテキスタイルブランドである。1820年に、スコットランドの機械エンジニアのジェーム・フィンレイソンが綿工場をフィンランドのタンペレに設立したのが始まりである。1840年代にはフィンランド最大の工場となる。アルヴァ・アールトがデザインしたテキスタイルなどがある。フィンレイソン布地は繊細な線で描かれた模様や大柄の連続模様やポップでモダン模様など様々である。最近では、日本の企業とコラボレーションし、人気を呼んでいる。ムーミン製品も売られている。(FinlaysonのHPから <http://www.ilovefinlayson.com/us-as-a-company/finlayson-oy>)





● ペンテックPENTIK

ペンテックは1971年に、フィンランド、ラップランドのポシオという村に設立された陶器とインテリアを中心とした家族経営の会社が始まりである。アヌ・ペンテックとトピ・ペンティカイネンによって作られた。ペンテックでは、陶器、レザー商品、家具などが売られている。世界で最北端陶芸の工場がある。(PentikのHPより <http://www.pentik.com/en/pentik/historia/Pages/default.aspx>) 個人的にはマリメッコよりも落ち着いた模様と色が多く使われており、穏やかな空間を演出することができる。自然の植物、動物がモチーフとして使われている。



注

- 1 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/finland/data.html#section1>による。
- 2 庄井良信・中島博 『未来への学力と日本の教育3 フィンランドに学ぶ教育と学力』 明石書店 2005
- 3 石山和之 「フィンランドにおける教育の歴史と現状」(『初等教育論集13』収録) 平成23年度卒業論文 国土館大学初等教育学会 2012
- 4 ヘイッキ・マキパー著 高瀬愛訳 『平等社―フィンランドが育む未来型学力』 明石書店 2007 p18
- 5 Core curriculum for basic education 2004 フィンランド・ナショナル・コア・カリキュラム(基礎教育) 2004